



三中コミスク便り

第2号
令和6年7月発行
発行責任者
CS ディレクター

令和6年度 コミュニティ・スクール（CS）活動報告

6/19(水)に第2回学校運営協議会を行いました。
昨年度までと同様に給食の試食を行った後、5時間目の授業を参観し、その様子について委員の皆さんよりご意見をいただきました。その後、総合的な学習の時間の見通しと課題、学校支援について熟議を行いました。



給食参観 (試食の様子)



◇ふるさと給食週間
(地場産物を活用した献立)

献立

- 黒砂糖入りパン
- 豚肉の香味ソースかけ
- ほうれん草のソテー
- 卵スープ



<ご意見、感想など>

- ・コロナ禍が終わって、会話ができるようになり、明るい雰囲気になったように感じた。
- ・量的に少ないように感じたが、生徒に聞いてみると「おかわりができるから少ないと感じることはない」ということだった。
- ・成長期にある中学生にとって、必要な食事量が計算されている献立だなと感じた。
- ・とてもおいしい給食だった。生徒たちが笑顔でとても穏やかな雰囲気で食事をしていた。栄養教諭が生徒に声掛けをして、様子を確認しているのもよいと思った。



授業参観 (5時間目の様子)



真面目に静かに取り組む授業と、楽しくにぎやかに取り組める授業、というように色々な授業を見られたのはよかった。(委員)

真剣に学んでいた。発表も元気が良い。(委員)



先日、小学校で6年生の授業を見てきたが、中学1年生になると随分成長するものだと感じた。(委員)

授業において、先生方が生徒の学ぶ意欲を高める工夫をされていることが伝わってきた。(委員)

授業におけるITの活用の様子や授業前の教材の準備などを考えると、先生方の事前準備の大変さを感じた。部活動の地域移行が進むと、少しは軽減されるのだろうか。(委員)

1年生は、はつらつとして学んでいるように感じた。2年生と3年生は落ち着いていて、真面目に授業に取り組んでいた(委員)

総合的な学習の時間の見直しと課題

2、3年生が毎週金曜日5、6時間目に総合的な学習の時間で、「20年後の三ヶ日町の活性化」を共通テーマに継続的に探究活動を行っています。後期からは1年生も参加していく予定です。課題として「内容によっては自然に大きく左右されてしまうこと」、「生徒数の減少」、また「今までの成果を基にしての既存の流れがあることで、生徒たちが本来もっている探究意欲を削ぐことになっているかもしれないこと」が挙げられました。これらの課題を踏まえ、学校運営協議委員の皆さんと話し合いました。

- ・昨年度の中学1年生に「20年後に三ヶ日に住むと思うか？」というアンケートをとったところ、4分の1の生徒が「三ヶ日に残る」と答えている。4分の1という結果は少ないように思う。このことからすると、「20年後」というのは、中学生にとって現実的にとらえられる世界なのかとも思われる。
- ・自分たちの世代でも4分の1残っているかどうかであり、働く場所も十分ではないことも合わせて考えると、中学1年生の「4分の1」という数字は妥当なところかもしれない。
- ・今までの学習の成果により、活動のためのテンプレートが出来上がっていることの功罪はあると思う。自分は大人になってから、やっと地域の課題を見つめられるようになった。中学生という年齢では、「地域の課題とは」という意識が低いのは普通のことだと思う。
- ・「ジャガイモの新たなメニューを考える」という活動では、地域のアドバイザーさんと知り合うことで、三ヶ日にはこんなことができる大人がいるんだな、という新たな発見があったようだ。活動そのものは同じでも、「人」には発見があると思う。
- ・「20年後の三ヶ日町の活性化」というテーマは、中学生にとっては、やや漠然としていて、想像しにくいのではないかなと思う。三ヶ日町も、少子高齢化が更に進んでいくと思われる。18才から26才までの女性は、市外に出るとほとんど戻ってこないという現状もある。こういった現状などを踏まえて、「20年後の町の姿」を改めて中学生も考えていくとよいと思う。
- ・前回の協議会でも申し上げたが、グループの再編をした方がよいと思う。時期は11月の三中祭後が妥当だと思う。結果的に、今までと同じような活動になっても、意欲を見せるのであればそれでよい。確かに「20年後」の設定は難しいので、「三ヶ日町の活性化」ということだけでもよいと思う。

